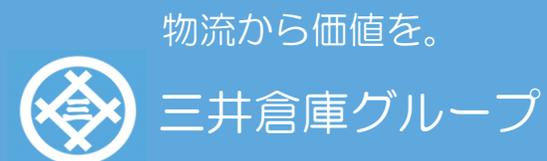


2022年3月期
第3四半期決算説明資料



2022年2月16日



- 説明資料内容
 - ▶ 2022年3月期第3四半期 決算内容
 - 2022年3月期 決算見通し



前年同期比増収増益

- 輸出入の回復を背景に、フォワーディング（FWD）業務や港湾運送業務におけるコンテナ取扱、海外における保管・運送取扱増加
- 新型コロナウイルス感染症の影響による、航空輸送の取扱増加
- 新設倉庫、新設物流センターの稼働により注力分野のヘルスケア物流・ソリューション物流において取扱が伸長

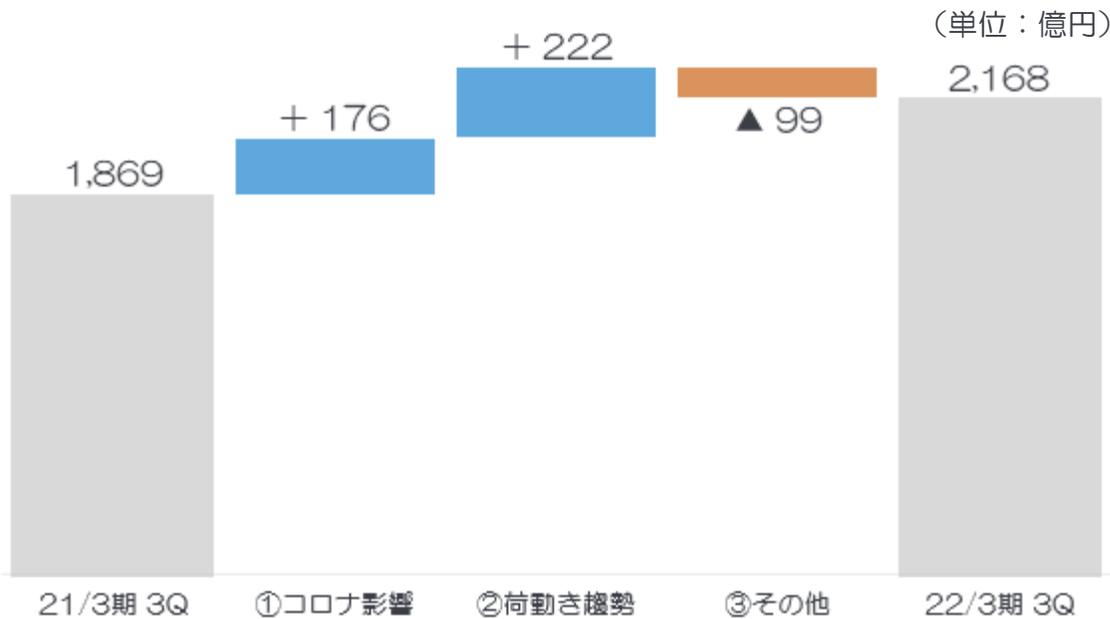
(単位：億円、端数四捨五入)

連結合計	21/3期 3Q	22/3期 3Q	増減額	増減率
営業収益	1,869	2,168	+299	+16.0%
営業利益	135	181	+46	+34.4%
経常利益	135	182	+47	+35.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	79	103	+24	+30.1%



前年同期比299億円の増収

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、航空輸送の取扱いが増加
- 輸出入の回復や、メーカー各社による原材料・部品在庫の一時的積増しへの対応等により、FWDや保管・運送業務の取扱いが増加
- 新設倉庫、新設物流センターの稼働により注力分野のヘルスケア物流・ソリューション物流においても取扱いが伸長



①新型コロナウイルス感染症による影響 (+176)

- ↑：サプライチェーンの混乱に伴う生産体制維持、見直しのための緊急航空輸送の取扱増加 : +110
- ↑：海上コンテナ不足に伴う航空輸送シフト及び航空運賃高騰 : +66

②荷動き趨勢等 (+222)

- ↑：海上・航空FWD業務取扱増加 : +85
- ↑：海外における保管・運送業務取扱増加 : +65
- ↑：家電関連物流取扱増（オリ・パラ需要含む） : +18
- ↑：港湾運送業務コンテナ取扱回復 : +10
- ↑：新設倉庫稼働等によるヘルスケア物流取扱増 : +18
- ↑：新設物流センター稼働によるソリューション物流取扱増 : +14
- ↑：その他 : +12

③その他 (▲99)

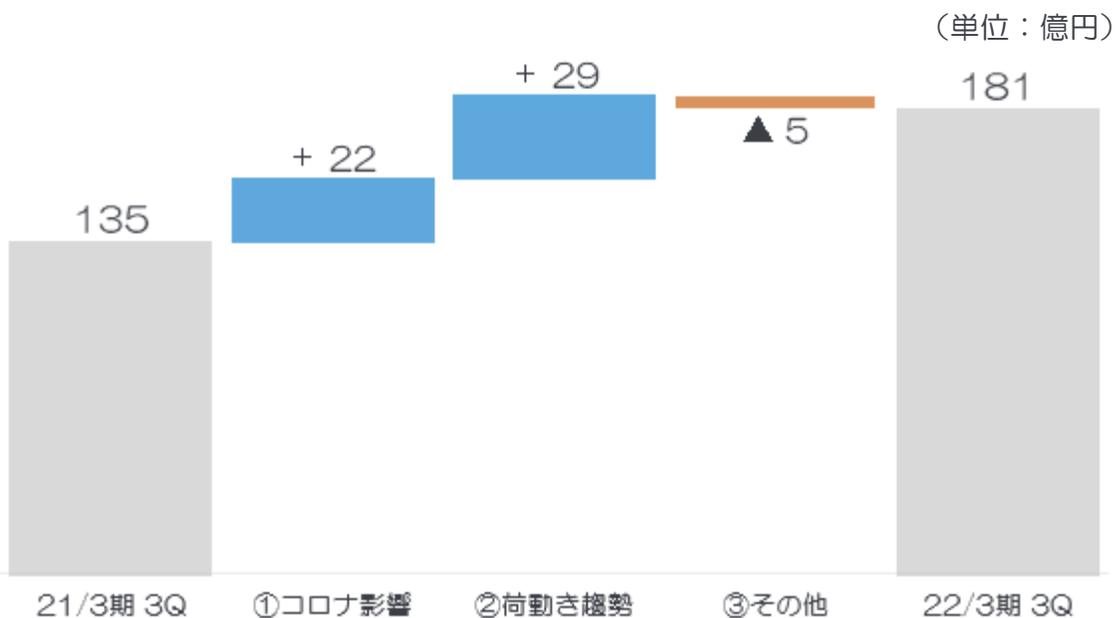
- ↓：Prime Cargoグループ連結除外の影響 : ▲99

(単位：億円)

事業セグメント	21/3期 3Q	22/3期 3Q	増減額	増減率
物流事業	1,802	2,102	+300	+16.6%
不動産事業	72	71	△1	△1.0%
全社・消去	△5	△6	△0	—
営業収益合計	1,869	2,168	+299	+16.0%



営業収益の増加を主因に、前年同期比46億円の増益



①新型コロナウイルス感染症による影響 (+22)

- ↑：サプライチェーンの混乱に伴う生産体制維持、見直しのための緊急航空輸送の取扱増加 : +13
- ↑：海上コンテナ不足に伴う航空輸送シフト及び航空運賃高騰 : +9

②荷動き趨勢等 (+29)

- ↑：海上・航空FWD業務取扱増加 : +6
- ↑：海外における保管・運送業務取扱増加 : +6
- ↑：家電関連物流取扱増（オリ・パラ需要含む） : +9
- ↑：港湾運送業務コンテナ取扱回復 : +6
- ↑：新設倉庫稼働等によるヘルスケア物流取扱増 : +2
- ↓：ヘルスケア物流新倉庫初期費用 : ▲1
- ↑：新設物流センター稼働によるソリューション物流取扱増 : +2
- ↓：軽油価格上昇 : ▲1

③その他 (▲5)

- ↑：のれん償却減 : +3
- ↓：業務デジタル化システム費用 : ▲4
- ↓：Prime Cargoグループ連結除外の影響 : ▲4

(単位：億円)

事業セグメント	21/3期 3Q	22/3期 3Q	増減額	増減率
物流事業	114	164	+50	+44.1%
不動産事業	43	43	△0	△0.9%
全社・消去	△22	△25	△3	—
営業利益合計	135	181	+46	+34.4%



金融収支及び営業外損益は前期並み

- 有利子負債の圧縮により支払利息は減少したものの、前期に政策保有株式を売却した事から受取配当金が減少
- 特別損益、特別利益は発生せず

(単位：億円)

連結合計	21/3期 3Q	22/3期 3Q	増減額	主な増減内容
営業利益	135	181	+46	
営業外損益	△0	1	+1	金融収支の減少 : △0.4 為替差損益 : +1.8 その他 : △0.5
〔内金融収支〕	△2	△3	△0	支払利息の減少 : +0.9 受取配当・利息の減少 : △1.3
経常利益	135	182	+47	
特別利益	3	—	△3	前期 投資有価証券売却益、等
特別損失	5	—	△5	前期 関係会社株式売却損
親会社株主に帰属する当期純利益	79	103	+24	

**営業キャッシュフロー（CF）は前期並み**

- 大きく利益は増加したものの、前期に有価証券売却益が発生したことから法人税等の支払額が増加

戦略投資、株主還元を実施

- 注力分野のヘルスケア物流専用の新設倉庫である関東P&MセンターB棟の建設代金の一部を支払
- 増配 1株当たり前期末30円（前年同期比+5円）、当中間35円（同+10円）（21年11月4日に公表済み）

（単位：億円）

連結合計	21/3期 3Q	22/3期 3Q	増減額	主な増減内容
営業キャッシュフロー	138	136	△2	
税金等調整前純利益	133	182	+49	
減価償却費・のれん償却額	74	69	△5	
法人税等の支払額	△46	△96	△50	前期に有価証券売却益発生のため 税額増
投資キャッシュフロー	△38	△59	△21	
設備投資・株式取得	△55	△62	△7	ヘルスケア物流専用倉庫の 建設代金の一部を支払、等
資産売却	17	1	△16	前期に政策保有株式・子会社株式を 売却
財務キャッシュフロー	△90	△55	+35	
有利子負債増減（ネット）	△65	△29	+36	
配当金支払	△12	△16	△4	前期末、及び当中間期末の増配
現金及び現金同等物	228	250	+22	



有利子負債圧縮、自己資本比率向上

- ・ 取扱増加、及び航空運賃の高騰に伴い売上債権が増加
- ・ 借入金の返済を進め、有利子負債は減少
- ・ 当期純利益の計上により自己資本は増加

(単位：億円)

連結合計	21/3期末	22/3期 3Q末	増減額	主な増減内容
総資産	2,384	2,520	+136	
現金及び預金	232	253	+21	
売上債権	324	367	+43	取扱増加、運賃高騰に伴う売上債権の増加
有形・無形固定資産	1,445	1,452	+7	ヘルスケア物流専用倉庫の新設、等
有利子負債	1,079	1,050	△29	
ネットデット	847	797	△50	借入金の返済
自己資本	627	725	+98	当期純利益の計上
自己資本比率	26.3%	28.8%	+2.5	
ネットD/Eレシオ	1.35	1.10	△0.25	



- 説明資料内容
 - 2022年3月期第3四半期 決算内容
 - ▶ 2022年3月期 決算見通し



通期の業績予想を上方修正

第3四半期の実績が、11月4日公表の業績予想を上回って推移

- ・ <営業利益 上方修正+15億円の内訳>
 - +9億円：航空輸送の増加（海上輸送からのシフトおよび部品等の緊急輸送の増加）
 - +4億円：FWD、保管・運送業務の増加（メーカー各社の原材料・部品在庫の一時的積増し対応等）
 - +2億円：その他

(単位：億円)

連結合計	前回予想	22/3期 通期	前回予想比	増減率	(参考) 前年同期
営業収益	2,750	2,850	+100	+3.6%	2,536
営業利益	205	220	+15	+7.3%	177
経常利益	201	218	+17	+8.5%	172
親会社株主に帰属 する当期純利益	117	120	+3	+2.6%	115



物流事業は増収増益、不動産事業は前期並みの見込み

〔営業収益〕

（単位：億円）

事業セグメント	21/3期 実績	22/3期 通期	増減額	増減率
物流事業	2,446	2,760	+314	+12.8%
不動産事業	96	95	△1	△1.3%
全社・消去	△7	△5	+2	—
営業収益合計	2,536	2,850	+314	+12.4%

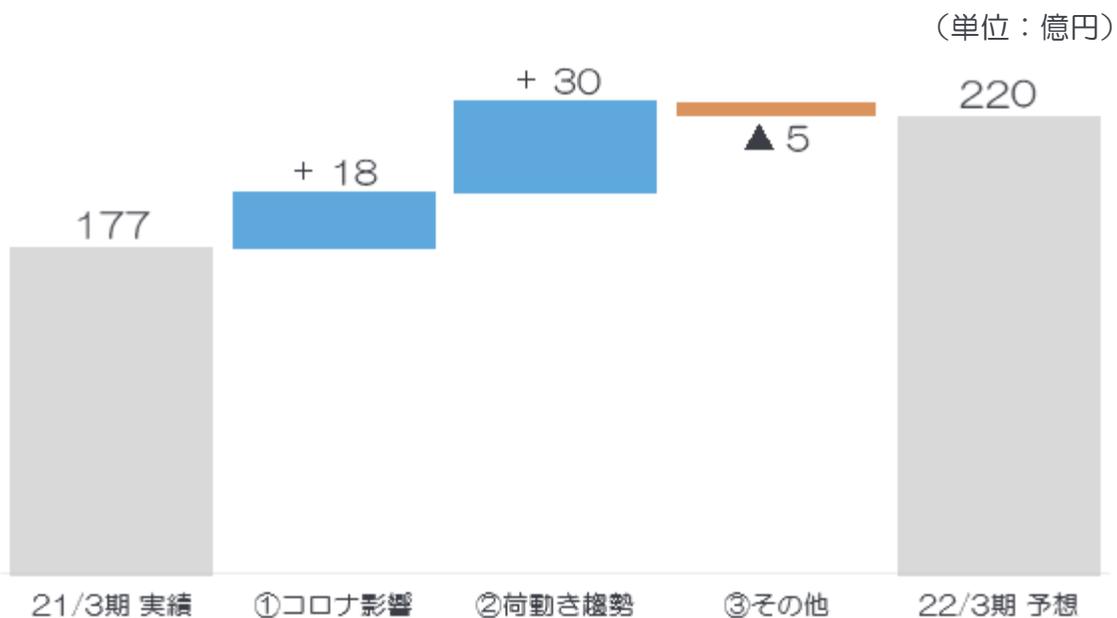
〔営業利益〕

事業セグメント	21/3期 実績	22/3期 通期	増減額	増減率
物流事業	150	199	+49	+32.8%
不動産事業	58	57	△1	△2.3%
全社・消去	△32	△36	△4	—
営業利益合計	177	220	+43	+24.6%



前期比43億円の増益で着地の見込み

- 新型コロナウイルス感染症の影響による航空輸送の取扱増加（+18億円）
- 輸出入の回復に伴うFWDや保管・運送業務取扱増などの荷動き趨勢（+30億円）



①新型コロナウイルス感染症による影響（+18）

- ↑：サプライチェーンの混乱に伴う生産体制維持、見直しのための緊急航空輸送の取扱増加 : +13
- ↑：海上コンテナ不足に伴う航空輸送シフト及び航空運賃高騰 : +5

②荷動き趨勢等（+30）

- ↑：海上・航空FWD業務取扱増加 : +7
- ↑：海外における保管・運送業務取扱増加 : +6
- ↑：家電関連物流取扱増（オリ・パラ需要含む） : +9
- ↑：港湾運送業務コンテナ取扱回復 : +7
- ↑：新設倉庫稼働等によるヘルスケア物流取扱増 : +2
- ↓：ヘルスケア物流新倉庫初期費用 : ▲1
- ↑：新設物流センター稼働によるソリューション物流取扱増 : +3
- ↓：新設物流センター稼働に伴う初期費用 : ▲2
- ↓：軽油価格上昇 : ▲1

③その他（▲5）

- ↑：のれん償却減 : +4
- ↓：業務デジタル化システム費用 : ▲5
- ↓：Prime Cargoグループ連結除外の影響 : ▲4

(単位：億円)

事業セグメント	21/3期 実績	22/3期 予想	増減額	増減率
物流事業	150	199	+49	+32.8%
不動産事業	58	57	△1	△2.3%
全社・消去	△32	△36	△4	—
営業利益合計	177	220	+43	+24.6%



(4) 通期営業外損益・特別損益見通し（前期比）

営業外損益の変動、及び特別損益の発生は見込まず

（単位：億円）

連結合計	21/3期 実績	22/3期 通期	増減額	主な増減内容
営業利益	177	220	+43	
営業外損益	△4	△2	+2	
（内金融収支	△4	△5	△1	）
経常利益	172	218	+46	
特別利益	57	—	△57	前期 投資有価証券売却益、等
特別損失	39	—	△39	前期 減損損失、関係会社株式売却損
親会社株主に帰属 する当期純利益	115	120	+5	



営業CFは前期比22億円増の235億円の見込み

戦略投資と株主還元を実施

- 投資CFはヘルスケア物流専用倉庫である関東P&MセンターB棟の建設代金の支払があったことから、政策保有株式の売却代金の収入があった前期と比較して88億円支出増の80億円のキャッシュアウトを見込む。
- 配当及び有利子負債の返済により、財務CFは145億円のキャッシュアウトを見込む。

（単位：億円）

連結合計	21/3期 通期	22/3期 通期	増減額	主な増減内容
営業キャッシュフロー	213	235	+22	
減価償却費・のれん償却額	98	92	△6	
投資キャッシュフロー	8	△80	△88	
設備投資・株式取得	△81	△80	+1	
資産売却	88	1	△87	前期 政策保有株式・子会社株式売却
財務キャッシュフロー	△217	△145	+72	
有利子負債増減（ネット）	△190	△120	+70	
配当金支払	△12	△16	△4	前期末、及び当中間期末の増配
現金及び現金同等物	227	240	+13	



(6) 期末バランスシート見通し（前期末比）

投資の実行に伴い総資産増加

- ヘルスケア物流専用の新設倉庫の取得、及び新設物流センター用のマテハン機器の取得により、固定資産は増加

有利子負債は減少

- 借入金の返済により22年3月末の有利子負債残高は960億円、当期純利益の計上により自己資本は743億円を見込む

（単位：億円）

連結合計	21/3期末	22/3期末	増減額	主な増減内容
総資産	2,384	2,500	+116	
現金及び預金	232	240	+8	
売上債権	324	350	+26	
有形・無形固定資産	1,445	1,460	+15	
有利子負債	1,079	960	△119	借入金の返済による
ネットデット	847	720	△127	
自己資本	627	743	+116	当期純利益の計上
自己資本比率	26.3%	29.7%	+3.4	
ネットD/Eレシオ	1.35	0.97	△0.38	